

## 令和3年度秋田県協議会重点取組事項PDCAシート

## ○農産物輸送の労働時間等の改善

## ○重点取組事項概要

秋田県内の首都圏向け農産物輸送について、課題となる働き方改革関連法に対応したトラックドライバーの長時間労働の改善に繋がるよう、「秋田の未来の物流を考える協議会」の中に設置された「農林水産物流検討ワーキンググループ」との連携を図り、2024年問題に対応した問題点の課題解決に向け、農産物輸送の実証実験を実施する。

## 【問題点】

1. ドライバーの長時間労働
2. 非効率な集荷ルート
3. 紙ベースの集荷依頼や配送指示

## 【取組事項】

将来にわたって安定した輸送体制を構築する

1. 集荷と幹線の分離
2. 集積所の役割の進化・効率化
3. ICTの導入活用による業務効率化

## ○KPI

・実証実験で検討する解決策等

- ①集荷ルートの見直し(配送・業務効率化)
- ②集荷と幹線分離によるドライバー運行あたり労働時間削減
- ③ICTによる物流情報の可視化(配送・業務効率化)

## 【KPI】

- ・ドライバー労働時間削減
- ・物流コスト削減
- ・ドライバーの売上高増

## ○重点取組事項の取組状況

令和3年11月7日から11月13日までの1週間、秋田県からの青果物輸送について実証実験を行う。

- ・ハブ拠点(中継点)を設け、集荷便と幹線便分離し、ドライバーの労働時間削減を目指した。
- ・秋田県内の集荷ルートの見直しによる集荷車両台数の削減。
- ・ICTの導入による物流情報の可視化を行う。  
(詳細については別添資料の報告書による)

## 【KPIの達成状況】

- ・ドライバー労働時間削減  
実証実験前(15時間18分)→実証実験後(幹線便13時間7分+集荷便3時間49分)  
**実証実験前より増加したが、しかし幹線便のみを比べると2時間11分の削減となった。**
- ・物流コスト削減  
実証実験前コストより約92万円費用が上回ったが、**運行本数やパレットの費用を抑えることにより、コスト削減を見込むことができる。**
- ・ドライバーの売上高増  
実証実験前を100として、実証実験により明らかになった課題が解決した場合129.7となり、**ドライバー1時間当たりの売上は約1.3倍に増加すると期待ができる。**

## ○課題及び今後の対応の方向性

## 【実証実験で見えてきた課題】

- ・幹線便の運行台数の見直し
- ・市場での待機時間の削減
- ・勤務開始時間の調整
- ・ハブ拠点における作業時間の削減
- ・幹線便に加えてサービス運行している集荷便廃止
- ・市場からの空パレット回収
- ・JAの作業コスト削減  
(詳細については別添資料の報告書による)

## 【今後の対応の方向性】

- ・国等の補助金を活用した実証実験については、今回の実証実験を通じて明らかとなった課題解決を中心に「秋田の物流モデル」を通年化につなげる。
- ・課題解決のためには、更なる積載効率向上のための仕組みの構築等、令和4年度の実証実験に取り組むことが不可欠であると事務局として判断する。